

江北の四季

令和3年
3月14日
第46号



つくし

○つくし(土筆)

子供の頃、ツクシンボが生えてくるとやたらと摘んで遊んだ覚えがあります。相手に見えないように節の部分で抜いてから、元の位置に戻して「どこどこ継いだ？」と当てっこをしました。年上の子から食べられると聞いて山ほど摘んで持ち帰り、母親に渡した覚えがあります。母は困惑した様子でしたが、袴はかまを取って何かにくれてくれたようでした。でもそこからは記憶がありません。子供にはきつとまずくて食べられなかったのでしょうか。

一般に、つくしは漢字の土筆のとおり、土に筆を逆さに挿したような形状からついたと言われます。また、みおつくし標(船が港へ入る通

路を示した杭)の「つくし」で、突き立った杭のように見えることから来たとも。

つくしを見ると、「春だなあ」と感じる一方で、庭仕事をするようになってからは、「またスギナの季節か」と憎たらしく思います。スギナはシダ植物で、つくしとスギナは地下茎でつながり、つくしは子孫を残すための胞子茎です。スギナは地中深く根を伸ばすので、とったつもりでも根の先が残りまた生えてきます。で、とつてもとつてもなくならず、全く困った雑草です。スギナ(杉菜)の名は、葉が杉の葉に似ていることに由来するとされませんが、つくしと同様に節のところを抜いたり継いだりして遊べるので「継ぎ菜」からきているとも言われます。

昔の人が「スギナの根は地獄まで伸びている」と嘆いて、つけた別名は地獄草です。



つくしとスギナ

○第九候、啓蟄末候、菜虫化蝶(菜虫蝶)と化すなむしちようとなる。

三月十五日〜十九日。

菜を食べる虫が蝶になるのはモンシロチョウ(紋白蝶)です。冬を蛹さなぎで過ごした蝶はこの時期に羽化をして蝶に変身します。モンシロチョウは卵から成虫になるまでに約一ヶ月、成虫になってからは一週間〜十日前後の命です。暖かい季節にはこのサイクルを繰り返します。そして、晩秋に蛹さなぎになったものはそのまま越冬し、寒い冬の低温を経て暖かくなると羽化をします。この時期、黄蝶きぢょうも見られるようになりますが、こちらは成虫のまま冬越しをします。春になると急に現れる様に見えますが、彼らは長い冬を生き延びて命をつないでいます。この時期の蝶は「初蝶」と呼び、春の季語です。

ほうじょう おおびさし
方丈の大 庇より春の蝶

高野素十

竜安寺の石庭に一匹の蝶。静寂な石庭に入ってきた一匹の蝶。静と動。それらを包む春のうららかさ。

人生は「胡蝶の夢」、夢か現うつか、なんて感慨かふに浸ひたっていられません。野菜畑あみに、網あみを被せなければ。



スマイレ(葎)が園路で咲き始めました。

四番の後、ラララ……と歌って終わる場合が多いですが、五番として、

♪春夏秋冬愛して 僕らは生きている
太陽の光浴びて 明日の世界へ
と、歌う人もいます。

私は五番として、最近風呂の中で
♪四季を愛する人は 心優し人
花を愛し愛される 僕のあなたよ♪
と、歌っています。

スマイレの種子にはエライオソームというアリの好物が付着しており、アリが巣に持ち帰ります。エライオソームを食べ終わると、種子を巣の外に捨てるので、このアリの行動によって種子は遠くへ散るそうです。街中まちなかでもスマイレがよく見られるのは、アリのお陰ですね。

名前は、花が大工さんの使う墨壺すみつぼの形に似ているから、墨入れがスマイレになったとか。

やまじ
山路きて 何やらゆかし すみれ草ぐさ
松生芭蕉

『野ざらし紀行』にあり、京都の伏見から大津に行く途中の山道で詠んだそうです。

葎ほどな 小さき人に 生まれたし

夏目漱石

漱石も多くの句を詠んでいます。

つるおと
弦音にほりと落ちる椿かな

菜の花を通り抜ければ城下かな

○春分

三月二十日。および、清明(四月四日)の前日まで

太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになります。

菜の花や月は東に日は西に

与謝蕪村

太陽が西に沈む夕暮れどきに月が東に見えるということ、その月は満月ですから、今年三月二十九日前後です。

春分の日の前日三日間、合計七日間は春の彼岸です。また、法律では、春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日となっています。ご先祖様に感謝をしつつ、春を満喫です。すぐにまた、暑い夏がやってきてしまいますから。

春は、「光の春」から「音の春」へ、そして「気温の春」へと移り変わると言われます。二月、まだ寒いですが日脚が少しずつ伸びてくるのがわかるようになります。三月に入ると、雪解け水で増水した川の音、鳥の鳴き声などが聞こえてきます。そして、春分を過ぎる頃からは、「暑さ寒さも彼岸まで」のとおりに、気温が上昇し、百花繚乱の春を迎えます。ソメイヨシノが咲くのももうすぐです。

私の大好きな歌です。学生の頃より、気分のいいときに口をついてくる歌です。

「四季の歌」

荒木とよひき作詞・作曲

春を愛する人は 心清き人
すみれの花のような ぼくの友だち
夏を愛する人は 心強き人
岩をくだく波のような ぼくの父親
秋を愛する人は 心深き人
愛を語るハイネのような ぼくの恋人
冬を愛する人は 心広き人
根雪をとかす大地のような ぼくの母親♪

○レンギョウ(連翹)
 シナレンギョウ、チヨウセンレンギョウ、
 洋種レンギョウなどがあるようです。枝が長
 く垂れ下がるのが特徴ですが、花屋さんでは
 なかなか手に入りにくいです。



レンギョウ

園芸店で買ったもの。
 中は空洞で折れやすい。



レンギョウ(連翹) 花材として来たものを挿し木して3年

右下、立花新風体。
 ピンク猫柳、椿、キ
 ンセンカ、高野槇、紅
 梅、クリスマスローズ、
 ヒマラヤユキノシタ。
 左下、生花正風体。
 桃、菜花。



生花新風体

サンシュユ、ツバキ、
 オクロレウカ。

親先生の花器を借りて掛けの立花を。山茱萸、
 しだれ柳、椿、水仙、伊吹、松、トキワマンサク。



掛けの立花

☆前回、サンシュユを生花別伝の形にして四瓶。別
 伝には使えませんでした。面白い枝を残しておい
 て一週間後にいけました。

連翹、椿、
 オクロレウカ



連翹、椿、
 フェンネル



連翹、椿、
 トキワマンサク



正風体は床に合います。

☆連翹が満開。しだれを生かして上段流しにと思い
 ましたが、そう簡単には撓められませぬ。中段流し
 が精一杯です。でも連翹の自然の造形は素晴らしい。
 正風体はだめでも新風体で生かします。

